



中洋小学校

地域住民の力で 子供の多彩な才能・能力を伸ばす！

文部科学省は、“教育振興基本計画”（令和5年6月16日閣議決定）の中で、今後の教育政策に関する基本的な方針の一つとして、「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」を定めています。

その中で、「これまでの同一年齢で、同一内容を学習することを前提とした教育の在り方に過度にとらわれず、個々に最適な学びを提供するとともに、正解（知識）の暗記や画一的な教育による弊害を排し、同質ではなく異質なものと融合こそがイノベーションを生み出すとの発想の下、多様な才能・能力を生かす教育を行っていくことが求められる。」と述べています。

※ イノベーション…新たな考え方や技術を取り入れ、新しい価値を生み出し、社会に大きな変革をもたらすこと
本号では、地域住民と教職員が力を合わせ、個別な学びを提供している中洋小学校を紹介します。

「たくしゃ教室」＜子供の学びへの支援＞

【実施日】毎週金曜日 【場所】パソコンルーム

【時刻】13:05～35＜昼休み＞

【参加者】希望する子供＜1～6年＞

【支援者】地域住民、校長、教頭、教職員

計算ドリルの問題を
やっています。困っ
たら優しく教えてく
れます。やる気が出
ます。 <子供>

数字カードを見せるのだな。
(18を見せて)何と何の数字
できているかな。
<地域住民>

子供は地域の宝です。
頑張っている子供を見
ると、自然と応援したく
なります。 <地域住民>

10と8です。どう
ですか？<子供>



幕末の陽明学者 東沢瀉にあやかった地域住民による
学習支援です。私(校長)の学力向上への課題を聞いた
学運協委員さんが、地域住民に声掛けして始まりま
した。14名の登録があり、毎回5名以上が参加してく
ださい。ありがたいことです。 <山縣 中洋小校長>

(漢字ドリルの練習を見て)
最高、最高、とても上手だね。
<地域住民>

学校に来ることや子供に
教えることは全く苦になり
ません。楽しいです。
<地域住民>

一人ずつに教えてくれるの
でよく分かります。聞いてもら
って嬉しいです。 <子供>



地域連携教育の“よさ”である「異質なものと出会い」と「学力
向上」が上手く結びついていました。
大人の声掛けや接し方が素晴らしく、子供一人一人が自分のよ
さや可能性を実感したり、自分ではない他者(地域住民)を価値
ある存在(ありがたい存在)として感じ取ったりできていました。